

県立高校の在り方に関する 地区別情報交換会

令和7年10月21日

群馬県教育委員会

高校を取り巻く環境の変化

1. 社会の変化

- ・複雑かつ予測困難な課題を抱えた現代

➤ 高校教育の果たす役割は大きい

2. 生徒の多様化

- ・生徒の学習ニーズ、興味・関心、進路希望等の多様化

➤ 多様な生徒受入の体制づくりが必要

3. 生徒数の減少

- ・継続的な中学校卒業者の減少

➤ 学校の活力維持や特色化が必要

4. 教育のデジタル化

- ・社会や生活様式が大きく変容し、デジタル化が加速

➤ デジタルを活用した、個別最適な学びを推進

高校教育改革（県立高校の在り方の検討）が必要

既存の取組

- ◆ スーパーサイエンスハイスクール
- ◆ 非認知能力育成
- ◆ DXハイスクール など

+

在り方検討



すべての子どもに
公平で質の高い教育

01 地区別情報交換会

現状・課題等の情報共有

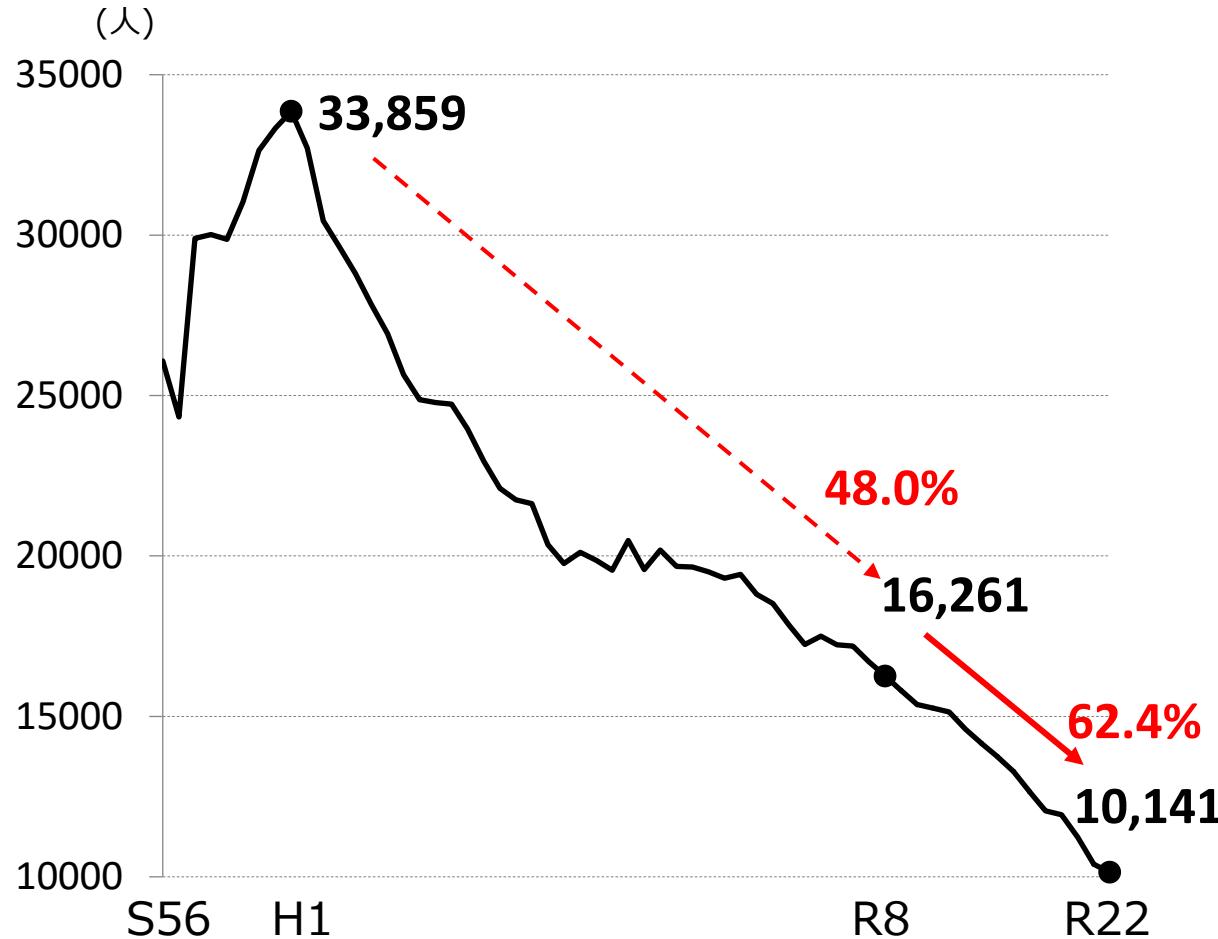
02 地区別検討会

地区ごとにゼロベースで
幅広く在り方を検討

県内及び地元中学校等卒業見込者数の推移について

学校基本調査準拠

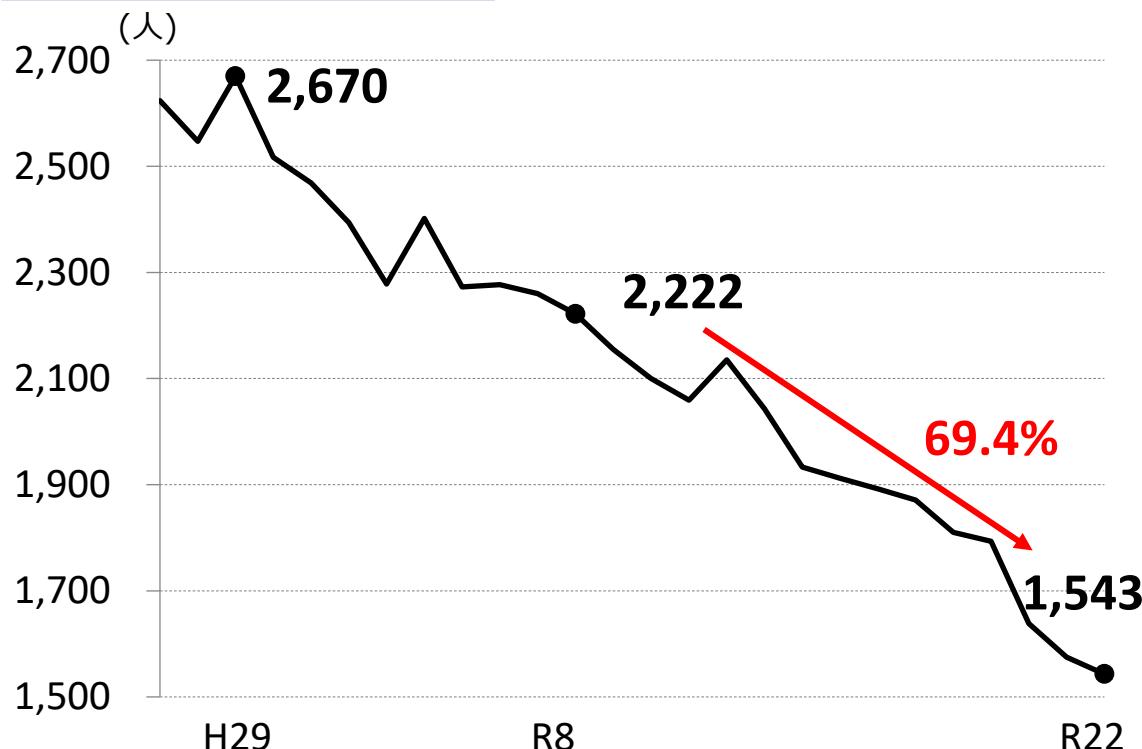
群馬県



- 今後、数年間の見込み

R8→R9 : -455 , R9→R10 : -436 , R10→R11 : -114

伊勢崎市・佐波郡



R8と比較して、R22(14年後)は、約680人減の見込

現在の高校数を維持

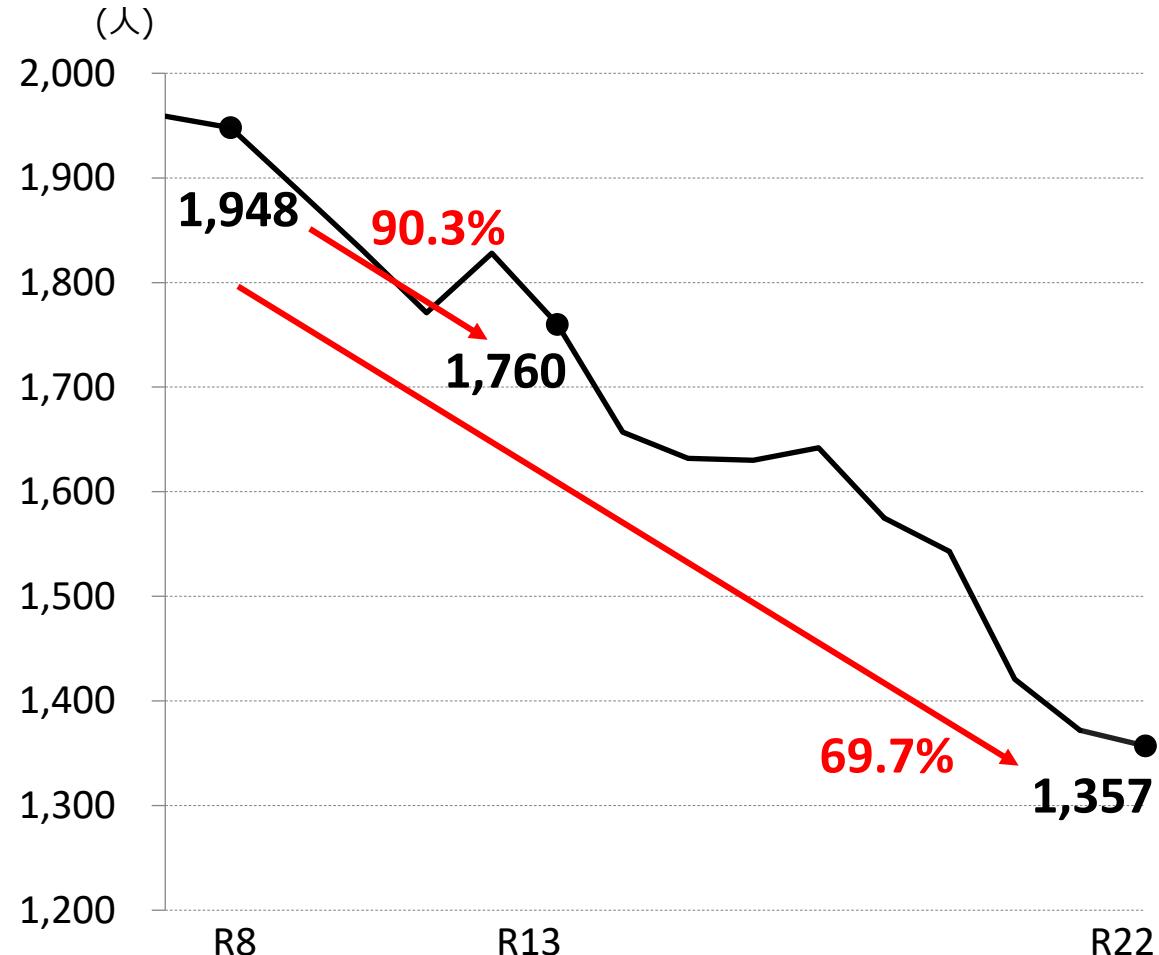


各高校の小規模化が進行

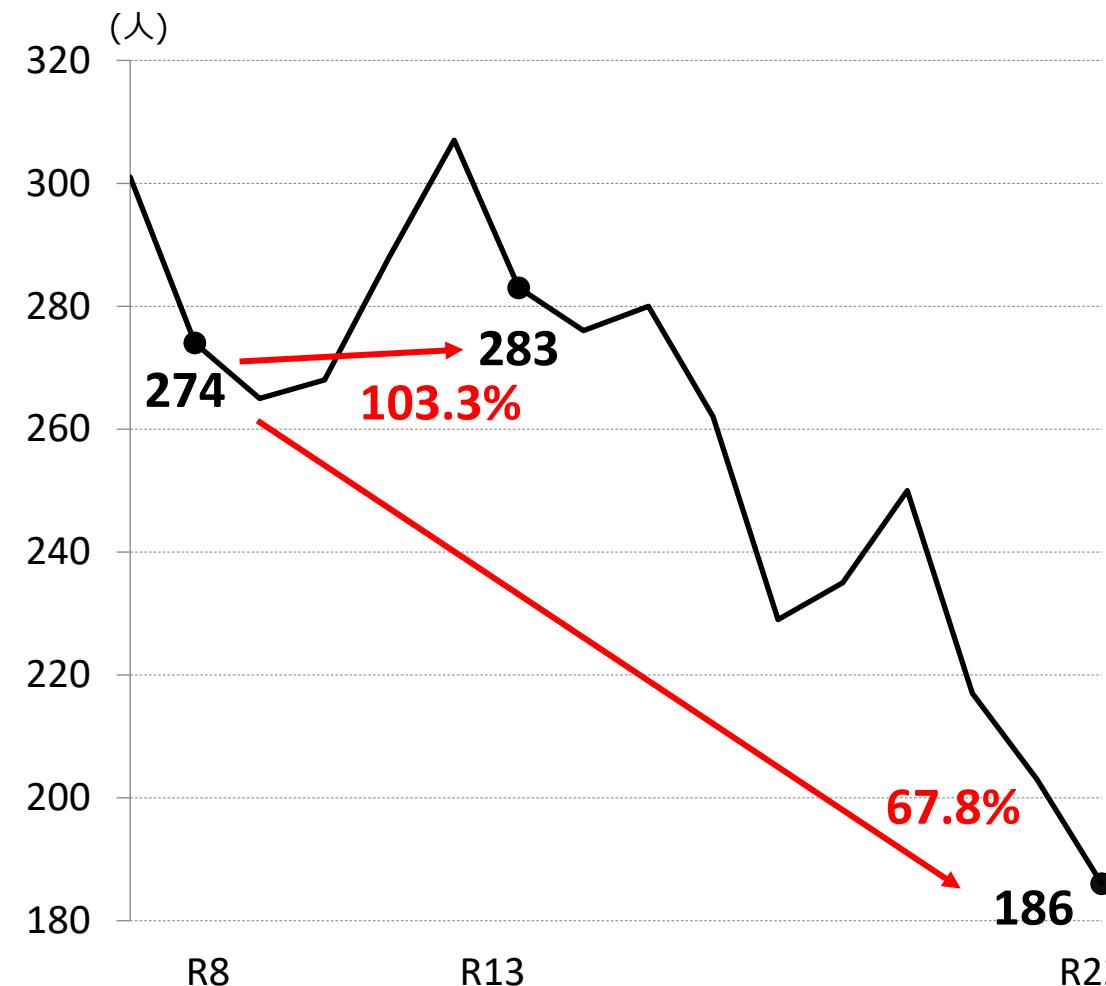
都市別中学校等卒業見込者数の推移について

学校基本調査準拠

伊勢崎市



佐波郡



地区内の公立高校のプロフィール

(R7学校要覧等をもとに作成)

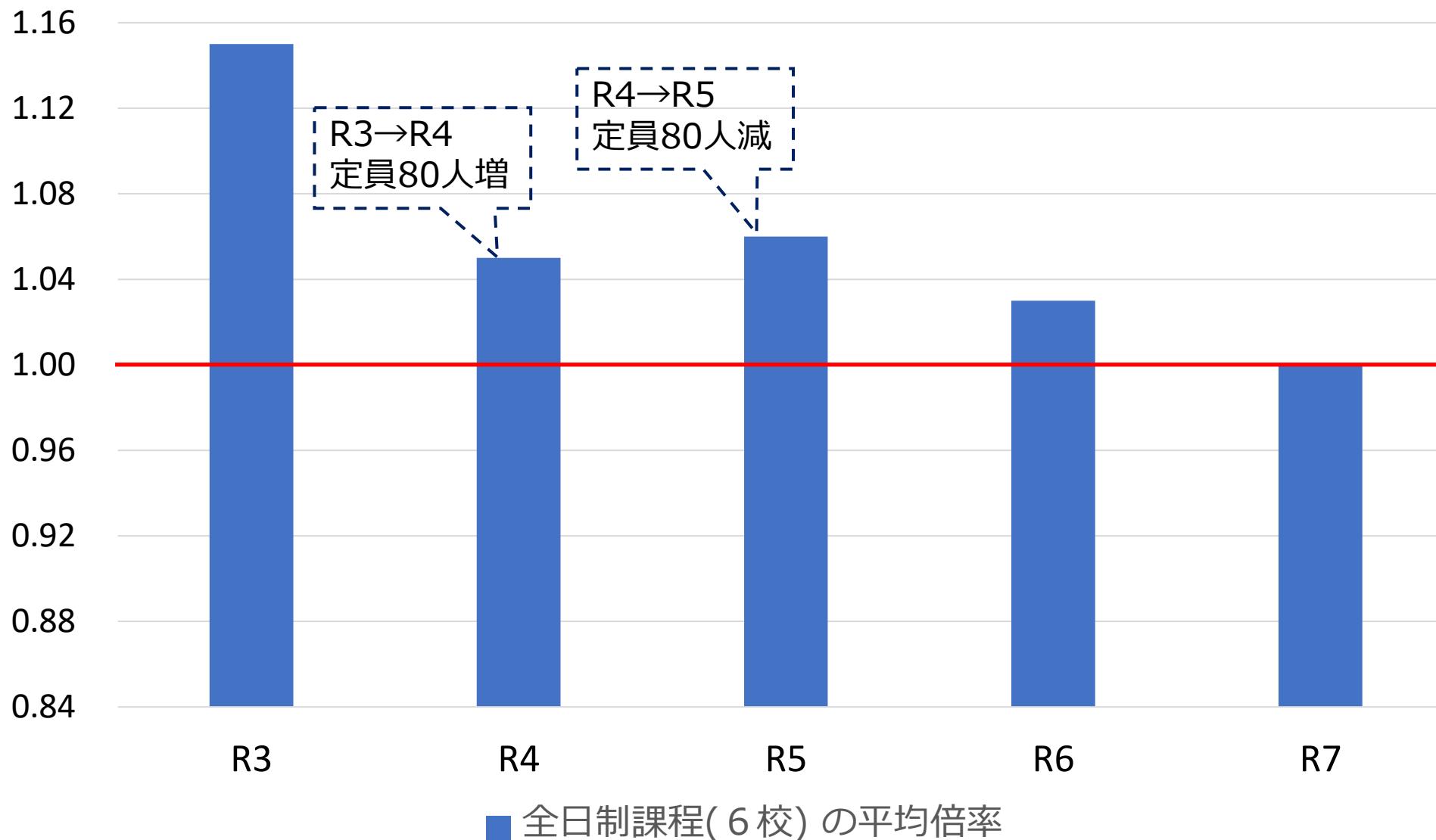
課程：全→全日制、定→定時制、通→通信制

学校名	課程	R7.3 卒業者 数	進路状況(R7.3卒業生)				特徴
			大学	短大	専門 学校等	就職	
伊勢崎	全	307	227	12	43	6	2004年開校の 普通科共学校 。S A H 指定校。 グローバルコミュニケーション科 →実践的な英語コミュニケーション向上プログラム
伊勢崎清明	全	236	153	17	55	1	1915年創立の普通科共学校。 2005年に全日制普通科単位制高校(男女共学)に改編。 進学重視型単位制高校 →きめ細かな進路指導・キャリア教育の推進
伊勢崎興陽	全	191	45	18	71	50	1920年創立の 総合学科高校 。農業、生活、福祉等に関する6系列設置。 系列名：いのちと緑を育む・食を科学する・食と経済を考える・花と緑で環境を創る・福祉と人間を学ぶ・生活と文化を築く
伊勢崎工業	全	185	36	0	63	86	1910年に県内最初に誕生した 工業高校 。 機械科、電子機械科、電気科、工業化学科の4学科を設置。 教育目標これから時代を生き抜く実践力と責任感を備える人材を育成
〃	定	14	0	0	2	4	1948年設置。工業技術科。1学年定員40名。 1コマ45分、1日4コマ授業。
伊勢崎商業	全	205	66	9	71	55	1919年創立の 商業高校 。 商業科、会計科、情報処理科の3学科を設置。会計科設置は県内唯一。 教育目標：一人一人を大切に一つひとつを丁寧に
玉村	全	74	5	4	25	38	1922年創立の 普通科共学校 。「ぐんまチャレンジハイスクール」として、学校設定科目「教養表現」や地域をフィールドとした探究学習等を通して、社会性や表現力を育成を目指している。

地区内の公立高校のプロフィール

地区内 公立高校(全日制課程)の入試倍率*の推移

*入試倍率…R3～R5は後期選抜

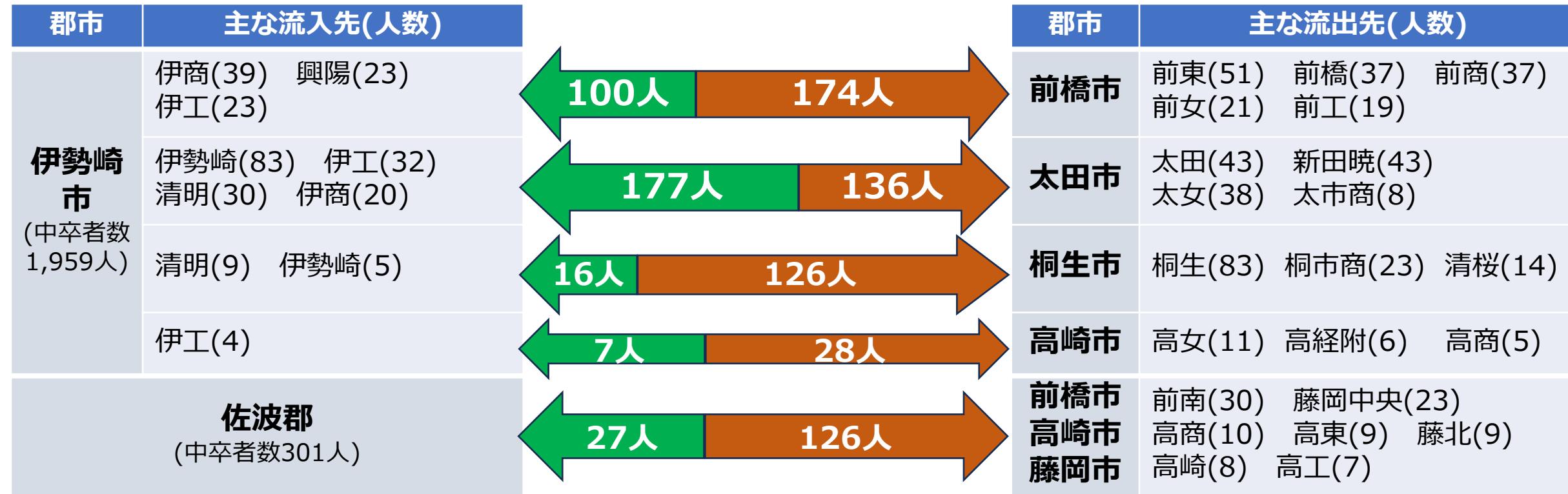


中学校卒業者の流入出について

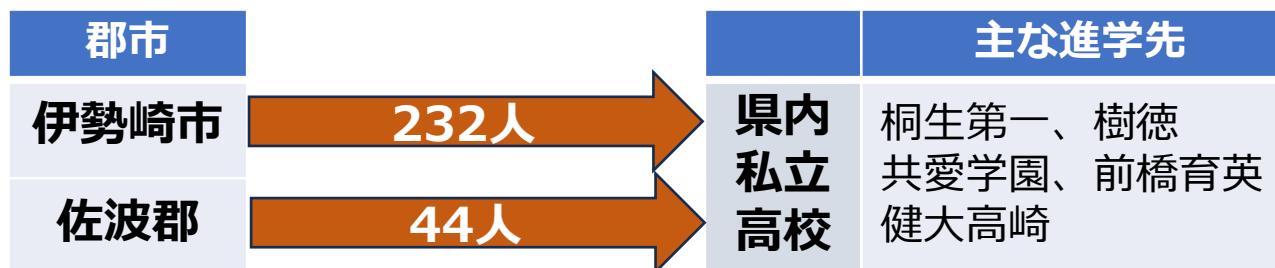
R 7 中学校卒業者の主な動き

学校基本調査等を基に作成

【県内他地区】



【県内私立高校】



【県外】



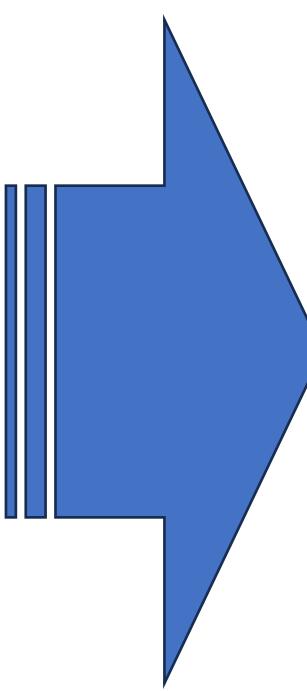
中学校卒業見込者数によるシミュレーション

中学校卒業見込者数

卒業年月	令和8年3月	令和13年3月	令和17年3月	令和22年3月
中学校卒業見込者数	2,222	2,043	1,871	1,543
増減(令和8年3月比)	-	-179	-351	-679

学級数及び学校数の見込み

高等学校名	学科等	令和8年		令和22年
		学校数	6校	
伊勢崎	普通科/グローバルコミュニケーション科	7 学級	30学級	23～17学級
伊勢崎清明	普通科(単位制)	5 "		
伊勢崎興陽	総合学科	5 "		
伊勢崎工業	工業系学科	5 "		
伊勢崎商業	商業系学科	5 "		
玉村	普通科	2 "		

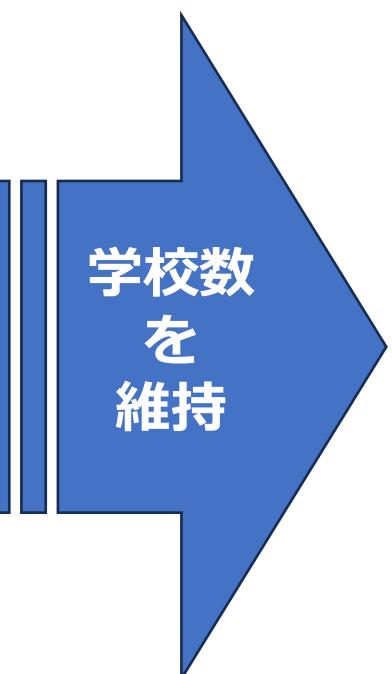


中学校卒業見込者数にともなうシミュレーション

令和8年度
1学年定員

全日制課程

6校・30学級		
伊勢崎	普通科/グローバルコミュニケーション科	7学級
伊勢崎清明	普通科(単位制)	5 "
伊勢崎興陽	総合学科	5 "
伊勢崎工業	工業系学科	5 "
伊勢崎商業	商業系学科	5 "
玉村	普通科	2 "

平均学級数
4.8学級/1校令和22年度
シミュレーション

6校・20.3学級

伊勢崎	4.9学級
伊勢崎清明	3.5 "
伊勢崎興陽	3.5 "
伊勢崎工業	3.5 "
伊勢崎商業	3.5 "
玉村	1.4 "

* 地区内の中学校
卒業見込者数の推移
R 8比 [69.4%] を基に算出

- 1学年の平均学級数
3.4学級/1校
- ほとんどの学校が
4学級以下に

※ [第2期高校改革推進計画] 2 県立高校の再編整備 (1)適正規模

イ 学習の専門性の確保に加え、多様な部活動の保障や学校行事等の活力維持から、1学年当たり4~8学級を基本とします。

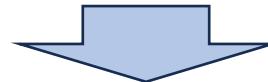
高校における小規模化の課題

生徒同士が学び合い、切磋琢磨できる機会の減少、多様な学び・充実した教育活動の実施が困難

1. 学校の活力への影響

【学校行事・部活動など】

- クラス対抗行事や体育大会の種目数の縮減など、活動の幅が限定される。
- 文化祭等の準備・運営が困難になり、学校行事等が縮小される。
- 部活動数が少なく、生徒は希望する活動ができない。
- 部員数が少なく、運動部のチーム編成や、音楽系部活動のパート編成等が難しい。



生徒の学びの機会の減少

2. 学習活動への影響

【学習活動】

- コース別や習熟度別などの編成がしにくく、多様な学習形態を取りにくい。
- 専門の教員をそろえ、全ての科目を開講することが難しい。
(高校では、総合的な探究の時間以外に10教科 15科目が必履修科目)
→生徒の科目選択が制限される

<学校規模別の配置教諭数の例（理科）>

教科	科目	学校規模(1学年当たりの学級数)			
		2学級	4学級	6学級	8学級
理科	科学と人間生活				
	物理基礎				
	物理				
	化学基礎				
	化学	2人	4人	5～6人	6人
	生物基礎				
	生物				
	地学基礎				
	地学				
	理科課題研究				



生徒の進路選択に影響

(進学に必要な受験科目が選択できない等)

栃木県

➤ 未来共創型専門高校 (再編統合)

- ・複数の職業系専門学科を併置 → 学科横断的学習を推進する総合選択制

<特徴>

- * 異なる学科の生徒が連携・協働して探究的に学ぶ活動を推進
- * 他の専門学科の科目や発展的な普通科系科目の選択が可能

岡山県

➤ 県立岡山御津高校 (総合学科) (学科改編等)

- * 高校進学を目指しているが、様々な理由で登校できていない中学生のための「教育支援センター“My Place”」を開設 (R6)
- * 全日制高校への進学を目指している不登校傾向の中学生に対して、入学後、他校の通信制課程の科目を一部履修 (全通併修) することができるフレックス制を導入 (R7)

大分県

➤ 大分県立情報科学高校 (学科改編等)

- ・2023年度に新たな時代を担う人材育成を目指して学科改編
→A I テクノロジー科、ビジネスソリューション科、デジタル創造科の3学科
- ＜特徴＞
- * A I 、 I o T 、半導体など高度先端分野を総合的に学ぶ (A I テクノロジー科)

兵庫県

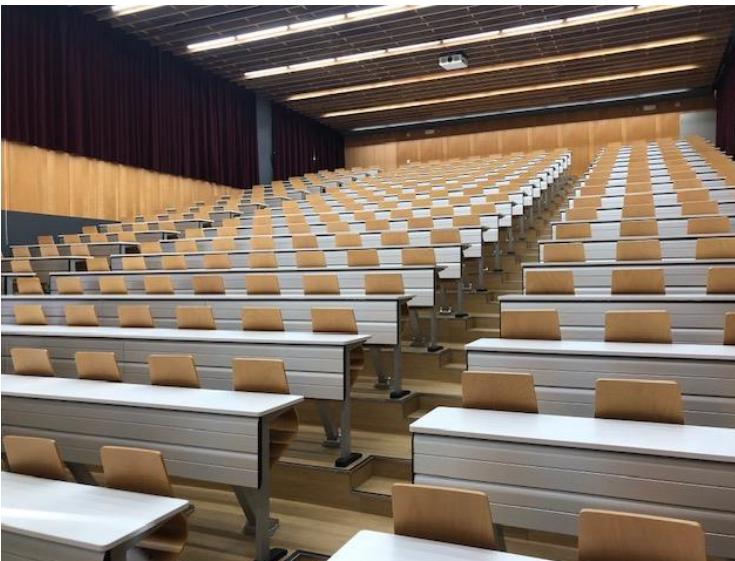
➤ 兵庫県立北神戸総合高等学校 (再編統合)

- ・2025年、県立神戸北高校(普通科)と神戸甲北高校(総合学科)の発展的統合により開校
→これからの中時代に合わせた多彩な科目 (系列) を設置した総合学科高校
- ＜系列＞宇宙・気象、DX、ひょうごからスタートアップ、スポーツ・アウトドアと防災、ダイバーシティー&インクルージョン、リベラルアーツ の6系列

京都府

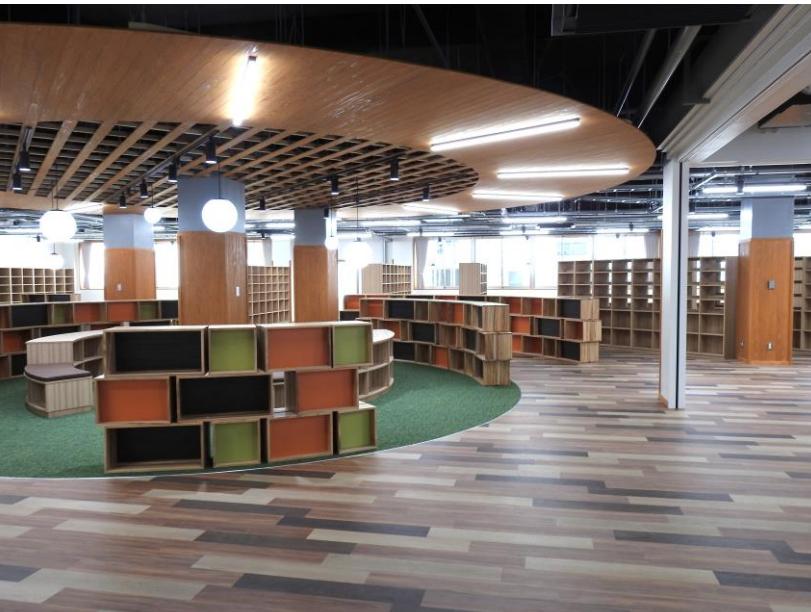
➤ 京都市立開建高等学校 (学科改編等)

- ・2023年、京都市立塔南高校(普通科・教育みらい科設置)を再編して開校
→ルミニノベーション科 (その他普通教育を施す学科) を設置 (1学科のみ)
* 「自ら主体的に考え、探究し、多様な他所と協働することを楽しみ、未来を創造する人物」の育成を目指し、対話・協働の学び、地域・社会での学び(探究活動)を展開。

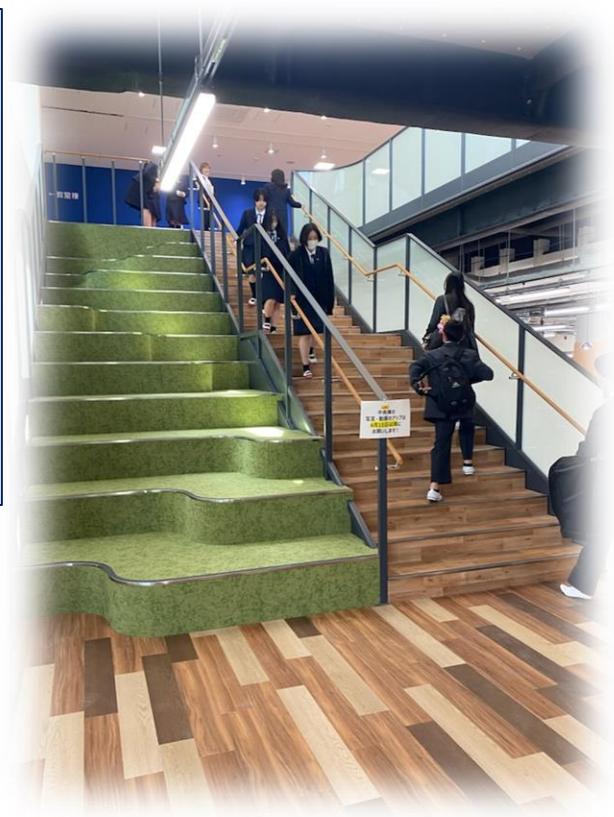


➤ 沼田高等学校 (再編統合)

- ・沼田高校と沼田女子高校の統合により、
2025年4月に開校した普通科共学校
→進学重視型単位制、文理探究コースを設置
- * 幅広い選択科目…自分だけの時間割
- * メディアラーニングセンターをはじめとする最新の学習環境を整備



← メディアラーニングセンター



検討方法

- 座長は第三者（有識者等）で開催
- 開催の要望を頂くなど、準備の整った地区から順次開催

検討内容

- 地区の高校の未来像について
 - ・生徒、地域の未来にとって、どのような高校が必要か
 - ・各地区にふさわしい高校とは 等



ゼロベースで
地区関係者による
検討